

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念があり、見やすいところに掲げている。理念を共有し、日々心において実践を取り組んでいる。	法人の理念を基に入居者と共に分かり易い独自の理念を作り、居間の見えやすい場所に掲示している。入居者自身が模造紙に書いたものを提示し、毎朝入居者と職員全員で唱和している。職員はサービス提供時も理念を心の支えとしており、理念にそぐわない言動が見られた場合には職員自ら考えるよう管理者からそれとなく注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等外出の際は、地域の方に挨拶し交流を図っている。近所の方が赤ちゃんを連れて訪ねて下さることもあり、利用者の方と交流して頂いている。また、近隣の方が来園して野菜、お花を差し入れて下さる。	自治会には複合施設として加入しているので回覧板、会報で地域の行事を知り参加している。複合施設全体としての奉仕活動で毎週金曜日朝に入居者と共にホーム前の道路の草取りや枯葉の清掃を行っている。ボランティアも多種多様で、中学、高校、専門学校の体験学習や実習を初め、近所の若い母親と赤ちゃん、料理、絵手紙やハーモニカなどのボランティアが来訪している。幼稚園児や小学生との交流もあり、入居者の楽しみが広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	うえだはら敬老園としては、地域行事の際に、介護教室、健康相談等を行い地域貢献を取りいれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や、活動報告を毎回行っている。また、会議の中で出た、上田南幼稚園、川辺小学校との交流など良さを取り入れている。	2ヶ月に1度開催されている。利用者、家族、地域住民代表、消防署員、地域包括支援センター職員、市高齢者介護課職員が出席し、利用状況、活動計画、取り組み事例、事故報告などが行なわれている。家族会と合同で行うこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	うえだはら敬老園として、常に市の担当者と連携を図り、サービスの向上に取り組んでいる。	上田市内の同業者で開催するサービス連絡協議会に市からも参加しており、情報をいただいたり、懇談もしている。介護相談員が3ヶ月に1度来訪しており、入居者と直接話す機会を持ち、サービス向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの取り組み」として、1~2ヶ月に1回スタッフ会議で拘束について話し合い、目標設定を行っている。一人ひとりの居場所を確認している為、日中は居室の鍵を掛けることはない。1階へ降りるエレベーターは常に施錠された状態だが、家族に説明し了承を得ている。	スタッフ会議でも話し合い全職員が理解している。現状では外出傾向の入居者はいないが、希望があれば職員が付き添い出かけている。訪問時は夏日を思わせるような暑い日であったが玄関の戸も開け放たれていた。入居者の中には「ここは会社」との思いの方がいて昼食の準備などに黙々と動んでおり、玄関ドアが開いているのを気にする気配は全く見られなかった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法をファイルし、読み合わせを行っている。また、虐待の徹底防止に努めている。		

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度についての資料をファイルし読み合わせを行い、必要な場合には支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明等詳しく行い、納得した上で、契約の手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、介護相談員、第三者委員が来園されており、1対1で話を聞いてもらっている。ご家族は、面会時、または電話にて利用者の状況を伝えている。また、グループホーム便りを発行して暮らしぶりを伝えている。出された意見、要望は、ミーティングで話し合い反映させている。	家族の来訪も事情により毎週あるいは2週に1度、月1度と色々であるが、年2回実施されている家族会や花見・バラ園見学等の行事には家族へもお誘いをかけており、意見や要望は個々の家族より聞き取りサービスに反映させている。独居から入居に到った方も活動的になり、良い方向で自分の暮らしが出来ている。ホームからの写真入りの「たより」が毎月発行されており家族の元へ届けられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、常に各職員の意見を聞き、運営に反映させている。	月1回のスタッフ会議があり気軽に意見を出し合い検討している。虐待防止、食事改善、感染症対策等の法人の委員会に職員が分担して出席しサービスの向上に活かしている。職員の年間目標を管理者あるいは施設長と相談して決め、振り返りの自己評価後面談も行なうなど管理者等と個別に話す機会も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働けるよう職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるようにしている。専門職としてのスキルアップを図るため、各職員に、資格取得に向けた勉強会や実践者研修への参加をすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互訪問や、事例検討等の意見交換を行い親睦を図っている。また、活動を通じて意見をケアに取り入れサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始以前に本人と面会を行い、本人自身の訴えや願いをよく聴き、受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から困っている事を聴き、安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階では、まず本人、家族の話をしっかり聴いて、内容によっては、他のサービス活用を勧めることも考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知ることに努め、共に支えあえる関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子や変化等は、家族に報告し共有して支援の方法、対応について意見を交換している。また、家族会を開催し、家族同士の交流の機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族と会ったり、家族との外出や外泊、美容院など馴染みの場所に出かける機会を作っている。利用者の友人や親戚が訪ねて来られることもあり、お付き合いが続くよう、雰囲気作りなどにも配慮している。	若い時に山登りや卓球を一緒にした友人やお花の先生をしていた時の生徒さんが訪れる入居者がいる。昔からの友人が毎週のように花を届けてくれ自分の居室や食堂に生ける方もいる。今は体を動かすことまでは難しいが趣味のダンスのサークルの場に職員が付き添い顔を出すこともある。ホームでも気軽に来ていただける雰囲気作りに心がけており、電話の支援などもしている。馴染みの美容院が迎えに来たり、月命日でお墓にお参りに行き、自宅でお茶を飲み、家族が送って来ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が交流を持てるように配慮している。また、孤立しがちな利用者には、家事やレクリエーション参加で、自然に皆の輪の中に入れるようにしている。		

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応する。終了の際に、利用者や家族にその旨をきちんと伝えるよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向を把握できるよう、日々関わりを持ち探るよう努めている。本人本位の検討を心掛けている。	自分の思いを言葉に表わすことができる入居者もいるが、日々の会話や表情から察し対応する方もいる。住んでいた自宅の草取りに出かける入居者や今まで歌うことのなかった入居者が大きな声で歌い家族が驚く場面もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、本人や家族に尋ねたりしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、勤務交代の際の申し送りや記録によって情報共有し、対応を考えている。月に一度スタッフ会議を実施し、それぞれの暮らし方とそのための支援を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー等を中心として、本人、家族、関係者の希望や意見を反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を基に担当職員の情報や独自のモニタリング表を参考にして、計画作成担当者により介護計画が立てられている。毎月のスタッフ会議で全員で話し合いが行われ、見直しは3ヶ月に1度実施しており、状況が変わった場合にはその状況に即して作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことも個別記録に残し、その場になかった職員にも情報が伝わるよう努め、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能の維持・向上の目的も兼ね、併設のデイサービスの体操・レクリエーションに参加して頂いている。		

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	手芸・朗読・絵手紙のボランティアや、レクリエーションと一緒に参加してくれるボランティアを受け入れている。また年2回の防災訓練には消防署へ協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。また、月一度は訪問診療に来てもらっており、各医療機関からの情報は個別記録と共に保管し皆で共有している。	ホームに隣接して同じ法人の運営するクリニックがあり協力医となっていることから本人・家族の意向によりかかりつけ医を変える入居者もいる。訪問診療も月1度行われている。歯科医も来訪しており、治療に当たっている。職員として看護師がいるので24時間、体調や健康管理についての相談ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師一名を配置し、利用者の日常の健康管理に努めると共に、必要に応じて医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、医療関係者と十分に情報交換をし、少しでも早期退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、家族・かかりつけ医と連絡を取り意見情報交換をしている。また、状況に応じ早い段階から医師からの病状説明をお願いし、家族が安心し納得出来る最期を迎えられるよう支援している。	「重度化対応及び終末期ケア対応指針」が重要事項に綴られている。看取りも家族が納得のもと医師、職員との連携で数件行われている。看取った後も家族が感謝の気持ちを形で表わしたり、ボランティアとしてホームに尋ねて下さるなど関係を継続している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署による救急法の勉強会を実施し、訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回にわたり、防災訓練を実施し、迅速な避難が出来るよう努めている。	隣接する複合施設と合同で年2回昼夜を想定した防災訓練が地域住民、消防団、消防署も参加して実施されている。避難訓練、消火器の使い方訓練を主として行われている。スプリンクラー、火災報知機も設置されており、食料品、介護用品の備蓄もある。運営推進会議には常に市消防署員の出席があり、法人として防災に力を入れている他、地域との防災協定も複合施設全体として締結している。	

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、誇りやプライバシーを確保した上で関わりを大切にしている。	個人情報の取り扱いに関する同意書が綴られている。職員も「教わることが多いんですよ……。」と常に尊敬の念を持ち、人生の先輩としてサービスの提供に努め、入居者の様子を見ながらさりげない支援を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を言える雰囲気作りに関心している。また、意思表示出来ない方には職員の言葉掛けで表情から探っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、笑顔が見られるように柔軟な心で関わり希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみに必要な支援を行っている。月1回に外部からの理髪店の受け入れを行っており、希望者は馴染みの美容院を利用している。また、行事の時はその場に合った身なりで参加して頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、片付けには、毎回利用者に参加して頂いている。ひとりひとりのADLや意思に沿い、仕事を分担している。	献立は法人の管理栄養士によって立てられているが、誕生日や行事、季節の野菜の収穫時には独自の献立となる。野菜の下ごしらえ、盛り付け、食器洗いなど出来ることをお手伝いしている。刻み食、ミキサー食の入居者も若干名いるが職員の介助を受けながら、実習生も食卓を囲み、和やかな昼食であった。ボランティアの協力を得てベランダのプランターや建物横のミニ菜園でニラやミョウガ、フキ、アズキなどを育てており食卓に上ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、季節の食材をメニューに取り入れたり嗜好も配慮している。水分量も確保出来るように、甘味を付けたり、トロミ剤やゼリーを活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学び、ご自分で出来る方には声掛け、見守りし、支援が必要な方には義歯を外し、口腔内の清潔に努めている。		

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の必要に応じ、声掛け・誘導を行っている。パットやリハビリパンツを使用している方も、できるだけトイレで気持ちよく排泄が出来るよう、支援に取り組んでいる。	一人ひとりの排泄パターンを排泄表から読み取り自立支援に努めている。入居者の殆どがリハビリパンツを使用している。夜間ポータブルを使われる入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向けて食事メニューを工夫している。下剤を使用する場合は使用過多にならないよう、服用の記録・申し送りをして、その時の状況に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、本人の希望に合わせて入浴出来るよう支援している。また、入浴を嫌がる利用者には安心出来るような言葉掛けの工夫をし、対応している。	入浴は自立の方が若干名で、一部介助の方が多。見守りで入る方も数名いる。終末期に家族と一緒に入浴し、職員とともに介助していただいたこともあった。併設のデイサービスにはリフト浴もあるが利用することは少ない。入浴日、時間は決められているが柔軟に対応している。入浴剤の使用、菖蒲湯、ゆず湯なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方から就寝に向けて、安心した時間の過ごし方を職員で工夫し、就寝リズムが安定するよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をファイルに保管し、全職員が分かるよう徹底している。また、変化等あった場合は随時記録をし、医療との連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や得意な事を理解した上で、家事参加や趣味活動への参加を通し、充実した一日を過ごせるよう支援している。また、個人の能力に合わせ、やりがいを感じて頂けるような役割を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に対し、出来る限り外出できるようにしている。また、車いす等を利用して歩行困難な方も外へ出られるよう工夫している。ご家族との外出は、積極的に出掛けて頂けるようすすめている。	車椅子の方も含め思い思いのペースで近隣を散歩している。近所のお宅に花を見に行ったり、花を頂いたり、話をするのを楽しみにしている。行事外出として花見、バラ園見学、新緑ツアー、紅葉狩りなど、家族の参加も得て外出を楽しんでいる。	

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理の力量を検討し、お金を所持し、買い物の時に支払えるよう家族とも相談し取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという要望があれば、貸し出ししている。必要に応じ、見守りや仲立ちを行なう。また、個々に家族、親戚等に葉書を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品を飾り、季節感を取り入れ、照明、材質等も温かみを感じられるものを使用している。トイレは場所が分かりやすいよう、張り紙を使用している。	共用空間は、居間、台所、食堂、一段高くなった広い畳のスペースからなっている。生け花の先生だった入居者により花器に季節の花が生けられ華やいだ雰囲気を醸し出し、壁には習字教室に通う入居者の「かながき」の書が飾られている。昼食の用意、野菜の下ごしらえなどのお手伝いやテレビを見るなど自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身がくつろげる場所を確保している。 (居間、日当たりの良い廊下等)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力もあり、利用者それぞれに合った居室作りに取り組んでいる。	各居室には洗面台が設置されている。格調の高い家具やテレビ、テーブルに椅子とお客様を招待するような配置になった居室があり、家族写真を飾り、好きな手芸が出来るよう自分なりにしつらえた居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、段差解消や手すりを備えつけ、安全を図っている。またできるだけ自力で自由に行動ができるよう配慮している。		